



▲「厚田酪農振興会」が配ったプリンとヨーグルトを手に喜ぶ子どもたち(厚田小学校)。



▲盛重牧場では1日約2tの牛乳を生産しています。



牛舎は130頭のウシたちの体温で冬でもぽかぽか。その代わり「夏は大変なんですよ」と盛重さん。

いよいよ2009年! 厚田区にある盛重牧場では、今年の干支であるウシたちが、毎日新鮮な牛乳を出しています。

「飼育しているのはホルスタイン。親子合わせて130頭ほどいて、搾乳は毎朝4時と夕方4時の2回に分けて行っています」とは牧場主の盛重治さん。このように搾乳時間がきっちり決まっているのは、ウシがとてもデリケートな生き物のため。「搾乳時間が少しでも変わるとウシがストレスを抱え、乳質が変わってしまうんです。だから、仮に時間を変えるときでも1カ月くらいかけて徐々に調整しています」。

搾乳以外にも、毎朝行う牛舎の掃除の際には、ウシの調子が悪くないかどうか、しっぽにまで気を配ってチェックを欠かしません。さらに飼料にもこだわり、

良質な牛乳づくりは
ウシへの細心の気配りから。

自家栽培した牧草やトウモロコシを主として与えるなど、安心でおいしい牛乳づくりを徹底しています。

厚田にはかつてたくさんのお乳場があったものの、今では盛重さんを含む3軒のみ。その酪農家で構成される「厚田酪農振興会」では、自分たちが生産した牛乳を使ったプリンやヨーグルトを、厚田区内の小中学校の運動会で子どもたちと教諭に今年度初めてプレゼントしました。「地域と交流できることがあればと思って始めました。実際に配ってみたら、中には地元でウシを飼育しているの知らない子もいましたが、驚きとともに大変喜んでくれましたよ」。

皆さんも丑年にちなみ、おいしい牛乳をたくさん飲んで、元気な毎日を送ってください!

石狩から見える山（絵画編）



『石狩川鮭漁の図』（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター蔵）

石狩から見える山については、これまでも何度か（いしかり博物誌）で取り上げてきました。今回は『石狩川鮭漁の図』に描かれた山々の話です。

この絵は、石狩市の観光ポスターにも使われており、ご存じの方も多いと思います。明治10年代後半の石狩川河口での鮭漁の様子を描いたもので、作者は分かっています。

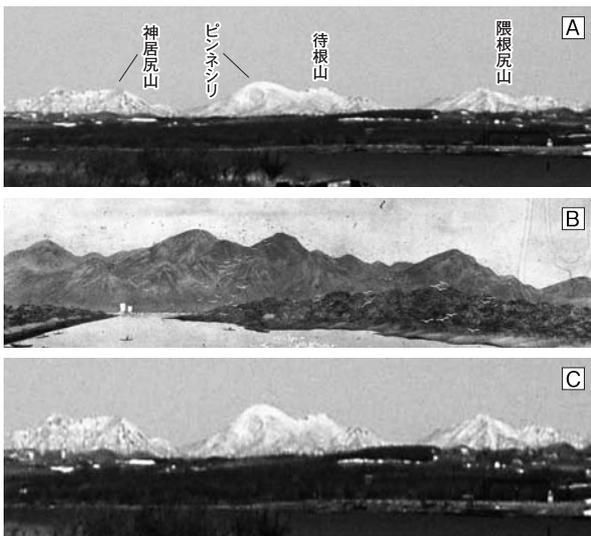
さて、これまで背景に描かれている山は、樺戸山地のピンネシリを中心とする山々だと推測されていますが、実際に比較してみましても、本町地区からピンネシリ方面を撮影したのがA、その下のBが『石狩川鮭漁の図』の山々です。似ているようでもあり、何か違うような気もします。そこで、Aの山の高さを1.5倍にした写真がCです。どうですか？ そっくりになったでしょう。つまりこの絵は、高さを5割増しにして強調しているのです。

ところで、この絵にはもうひとつおかしな点があります。遠景ではピンネシリを中心に神居尻山から隈根尻山までが画面いっぱい描かれています。しかし、これだと河口から左岸は画面に入らないはずなのです。

どうやらこの絵の作者は、背景に見える山々からピンネシリ方面だけを切り取り、高さを強調して描いているのです。

『石狩川鮭漁の図』には、一種の緊張感がありますが、その理由のひとつは、背景にあつたのです。

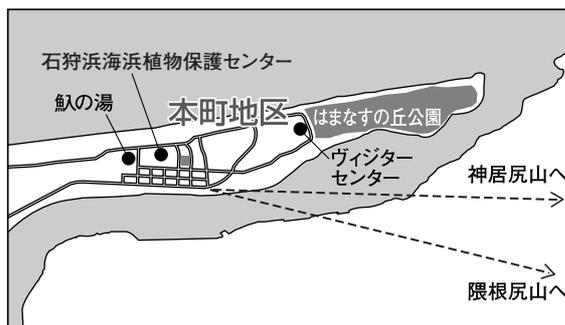
（工藤 ともえ 義衛）



A 本町地区からピンネシリ方面を撮影した写真

B 『石狩川鮭漁の図』の山々

C Aの山の高さを1.5倍にしたもの



■文化財課・いしかり砂丘の風資料館
☎62-3711
✉bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp



「いしかり博物誌」が番組になりました！
えりすいしかりネットテレビ (<http://www.i-eris.tv/>) で
ご覧いただけます。